

## 平成 29 年度 燕市青少年育成センター運営協議会 会議録（要旨）

**日 時：**平成 30 年 3 月 20 日（月） 午前 10 時～

**場 所：**中央公民館 東棟 2 階 講習室 B

**出席委員：**齋藤委員、若狭委員、宮崎委員、中川委員、三本委員、  
井部委員、長谷川委員

**欠席委員：**灰野委員、菊池委員、笠原委員、藤森委員

**事務局：**仲野教育長、宮路課長、田中参事、田中主任、川本主任

**報道機関：**なし

**傍聴者：**なし

### 1. 開会

**事務局：**定刻になりましたので、これより平成 29 年度燕市青少年育成センター運営協議会を開催します。

（資料確認）

今年度は燕市青少年育成センター運営協議会委員の更新の年ではないが、前任者の異動等により 5 名の方を追加で任命した。自己紹介については、委員名簿と卓上の名札をもって代えさせていただきたい。

慣例により本会議の議長は会長とのことで、挨拶と議事進行をお願いいたします。

**会長：**本青少年育成センターは、次世代を担う青少年の健全な育成を導く機関として、主な事業として青少年育成関連事業、補導関連事業、その他の事業として各地区の青少年健全育成市民会議等がある。そういった中で、今後も青少年の支援を行っていくことがこの会議の目的である。青少年の問題を皆さんで考えてもらうために皆さんに集まっていたいただいた。スムーズな議事進行についてもご協力をお願いしたい。

初めに「（1）平成 29 年度事業実施状況について」の説明を事務局から説明を願う。

### 2. 協議題

#### （1）「平成 29 年度事業実施状況について」（数字は 2 月末で掲載）

**事務局：**資料にもとづき説明。

**議長：**今年度の事業実施状況について報告があった。質疑のある方は挙手をお願いする。

**委員：**若者自立支援相談事業の件数について。今年度 84 件、昨年度 92 件であるが、進路決定者が今年度 6 人、昨年度 8 人とあるのは、同じ方が何回も相談していると理解してよろしいか。

**事務局：**ご指摘のとおり、相談件数は延べ件数で計上している。

**委員：**家庭教育講座の助成金が 1 回につき 7,000 円以内となっているが、予算限度はどれほどなのか。

**事務局：**家庭教育講座の助成金についての予算は、30 万円程度見ている。

**委員**：現在の件数であれば、申請は全部助成してもらえたということか。

**事務局**：予算内であれば助成している。

**議長**：他に質問はあるか。無いようであれば 29 年度事業について、承認いただける委員の拍手をお願いしたい。

**(拍手)**

**議長**：拍手により本件は承認とする。続いて「(2) 平成 29 年度事業計画 (案) について」の事務局からの説明を願う。

## **(2)「平成 30 年度事業計画 (案)」について**

**事務局**：資料にもとづき説明。

**議長**：次年度の事業計画について報告があった。質疑のある方は挙手をお願いする。

**議長**：無いようであれば承認いただける委員の拍手をお願いしたい。

**(拍手)**

**議長**：拍手を持って本案は承認とする。

## **3. 燕スマイル・サポート・ステーションについて**

**議長**：「燕スマイル・サポート・ステーション」についての事務局からの説明を願う。

**事務局**：資料にもとづき説明。

**議長**：燕スマイル・サポート・ステーションの説明があった。質疑のある方は挙手をお願いする。

**委員**：対象年齢が 39 歳までとなっているが、高校を卒業しても大学で上手くいかず中退する問題も起きている。相談対応した具体的な年齢層と主な相談内容をお尋ねする。

**事務局**：スタートして 1 年となるが、相談件数は 695 件、人数としては 105 人の実績である。そのうち、18 歳以上は 16 人。全体として「ひきこもり」、18 歳以上は「就職」についての相談が多く、アドバイスをしている。場合によってはハローワークへ繋ぐ指導もある。

**委員**：私たち（民生児童委員）は子どもさんの相談を受けることも少ない中で、実態が見えてこない現状がある。しかしひきこもり等で困っている方の情報を得た場合には、燕スマイル・サポート・ステーションを紹介することができると理解した。

**事務局**：この事業に対する理解と活用をお願いしたい。

**委員**：教員時代の経験からの意見として、高校で「不登校」となり、最終学歴の問題で就職ができないことから、生活困窮に繋がることもある。そして関連した事件等も発生している。この「燕スマイル・サポート・ステーション」が 39 歳までの方を対象とすることで、燕市としては一歩前進だ。中学を卒業した段階での「不登校」や高校中退の方々を救う対応の必要性を申し上げておきたい。

**議長**：一先ず「燕スマイル・サポート・ステーション」についての説明を終えたい。

## **4. その他・意見交換**

**議長**：その他・意見交換ということで、自由に意見交換いただきたい。

さきほど、委員から中学卒業後の対応についての話もあったが、それについて、または他のことでも、意見等ありましたらお願いしたい。

**事務局：**委員からのご意見は非常に重要な問題と認識している。「燕スマイル・サポート・ステーション」は先ほどの説明のとおり、義務教育が終わってからの切れ目のない支援事業という位置づけで活動している。また、若者支援相談事業も継続してきたが、これも中学卒業で切れてしまう場合もあるので、中学の卒業式にサポート・ステーションのチラシ等を卒業生に配らせてもらい、切れ目のない支援を目指したい。

**議長：**他に意見はないか？ なければこの辺で議長の任を解かせていただきたい。

**事務局：**会の進行ありがとうございました。それでは閉会の挨拶を教育長が申し上げます。

## 5. 閉会

**閉会の挨拶（教育長から、本会議の意見・内容を踏まえ結びの挨拶）**

**事務局：**これもちまして、平成 29 年度燕市青少年育成センター運営協議会を閉会します。  
ありがとうございました。

午前 10 時 45 分閉会